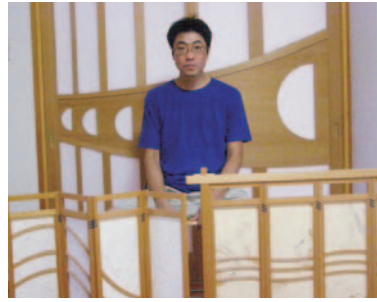


探訪 チャレンジ企業 75

若き建具アーティストの挑戦！ 多村建具製作所：能登鹿北商工会



多村正則さんと衝行屏

「地域ブランド」に認定された田鶴浜建具。その歴史は一六五〇年、当地の領主が母の菩提寺建立の際、尾張より指物師を招き、障子・欄間などの作製にあたらせたのが始

まりとされています。以来、代々匠の技を受け継いできました。

田鶴浜建具の精緻で丹念な技を活かし、柔軟な発想で新しい建具製作に取り組んでいるのが、今回ご紹介する、多村建具製作所の二代目・多村正則さんです。

一 伝統建具匠の技の継承者

親方でもある多村建具製作所を創業された父・正明さんは、石川県で開催された植樹祭には、天皇陛下ご使用の種子枘と盆の製作を担当されるほど腕利きの職人でした。

そのDNAを引き継いだ正則さんは、今では田鶴浜建具には無くしてはならない建具職人として、その高い技術力は県内・外でも評判となっています。

平成二十一年、所属する田鶴浜建具工業協同組合が、福井県の眼鏡関連業者との異業種による商品開発事業に取り組みました。

福井市を流れる桜の名所・足羽川堤防工事のため伐採された桜の木を、メガネフレームの一部に利用しようと眼鏡業者が提携先を模索していたところ、田鶴浜建具の木製加工技術に注目。多村さんは組合を代表して、〇・一ミリ単位の精度が求められる眼鏡のつる部材の加工を担当。完成

した商品のみた眼鏡業者は、その精巧な技術に驚嘆の声を上げたそうです。



桜メガネと精巧なつる部材

二 湧き出るものづくりのアイデア

多村さんのものづくりのアイデアは湧水のようにあふれ出ます。

石川県商工会連合会主催の「地域ブランド発掘支援事業」には、衝立（ついたて）、行灯（あんどん）、屏風（びょうぶ）の三つの用途が一つになった「衝行屏」（ついあんびょう）を出展。専門家の指導により、重厚な漆塗りを採用し、和風インテリア商品として新たに開発しました。

最近の住宅様式の洋風化にも対応した障子戸を考案。季節毎にお好みの窓の風景に衣替えできる「影絵障子」を開発し、石川ブランド優秀新製品に認定されました。

能登鹿北商工会が平成二十一年度に取り組んだ、田

鶴浜建具の「地域資源∞全国展開プロジェクト」では、その中心的な役割を担い、女性の視点に立った機能性の高い建具や、アート建具の製作を担当しました。

三 空間を彩るインテリア・ガラスアート建具

現在、多村さんが新しく取り組んでいるのが、七尾市能登島町で観光客に人気の、能登島ガラス工房とのコラボレーション建具です。

この建具のアイデアはアート建具を担当した時に思いついたもので、同じ建具でも昼と夜とは違う表情を見せる商品を考え、ガラスが放つ彩りを取り入れました。ステンドグラスやガラス玉をドアの内部に組み入れ、夜になると幻想的な光を放つ建具だそうです。

既存の枠にしばられない新しい建具を作る職人を探していた県外の業者の方が多村さ



ガラスアート建具

んの評判を聞きつけ、建具製作を依頼。多村さんは花火の華やかさをイメージしたガラス建具に取り組みました。表面は金色に塗装され、ガラスを幾何学模様にした「ガラスアート建具」を完成させ納品しました。

四 建具アーティストの夢

多村さんは、「今後も従来の伝統建具はもちろん、その時代、その人の生活環境にあった建具をこれからも提案していきたい。夢は、単なる間仕切りで使われる建具ではなく、美術館に展示できるようなアーティストイックな建具に取り組みしていきたい」と語ってくれました。

自由に発想し、部屋の「空間」をデザインする、若き建具アーティストのこれからの作品が楽しみです。

（お問い合わせ先）

多村建具製作所

〒九二九-1121

七尾市田鶴浜町八部一七七一

TEL 〇七六七-六八一三三四

http://www.3ocn.ne.jp/~march.t/

取材・執筆：県連合会

経営支援課 能登支所

日下雅喜

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会にお尋ねください。